



加賀・越中を結ぶ 古道と山城

戦国時代、加賀国(現在の石川県南部)と越中国(現在の富山県)の国境にはいくつもの街道があり、沿道には山城が築かれました。

これらの城跡は、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍による、天正12(1584)年の小牧・長久手の戦いに運動し使用されたものです。

このような街道と城跡のうち、小原越と切山城跡、松根城跡が、平成27(2015)年10月に「加越国境城跡群及び道」として国史跡に指定されました。

コラム

平成24(2012)年に大堀切(西端)で発掘調査を実施したとき、土壌分析を行いました。樹木では、マツ、コナラ、ハンノキ、コウヤマキ、スギ、サウダールミ、タニツギ等、草花ではイネ科、ヨモギ、タネホボ、カヤツリグサ、オオバコ、ソバ等の花粉が見つかっています。

また、ヒメナガゴミシの一種、ドウガネツイ、フトカドエノコガネの昆虫化石も見つかっています。馬のフンに生息するフトカドエノコガネが見つかっことは、松根城に馬がいた可能性を示す貴重な発見です。

(2016年 森勇一「郷土の考古学」)

昆虫

ヒメナガゴミシ	ドウガネツイ	フトカドエノコガネ

植物

ヒメ	コナラ	タニツギ
キモギ	タネホボ	ソバ



交通アクセス

公共交通機関
IRいしかわ鉄道「森本駅」下車、タクシーで約25分

自家用車
北陸自動車道「金沢森本IC」より約15分、または同「小矢部IC」より約20分

お問い合わせ

金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374 石川県金沢市上安原南60番地 TEL.076-269-2451
FAX.076-269-2452 E-mail:maibun@city.kanazawa.lg.jp

■山城マスター
飯田 花凛、岸田 健生、久木 伶哉、宮居 研太、中村 莉子、早川 大貴、百成 宏騎、前 大二郎、輪湖 幸太、中島 美優、谷井 芹皿、中谷 幸奈、楠 明杏菜、小柳 麗史、林 太一、三谷 悠人、村田 歩夢、竹田 通陽、井上 椋太

松根城案内図

松根城YouTube

松根城

国史跡

探訪マップ

城画：香川 元太郎(監修：千田 嘉博)

松根城跡は

砺波山丘陵の最高所(標高308m)に位置し、加賀国と越中国との国境となっています。城跡は東西約140m、南北約440mの規模で北端と西端が大堀切によって遮断されています。曲輪(平坦面)、切岸、堀切、横堀、土塁、櫓台、虎口等がよく残っています。

佐々成政

人物画：宮下 英樹

近年の発掘調査でわかったこと

壊された小原越があったと考えられる場所

仕切り状の高まり

大堀切

松根城側

松根城跡の西端にある大堀切は、小原越を遮断する目的で造られた堀切です。

道が突然25mも無くなっているの、堀をう回しないと松根城に行けなくなっています。また、堀切内の横移動を妨げるため、堀底に仕切り状の高まりが設けられています。

佐々軍の城の守りがとても強固であったことがわかる遺構の一つです。

1 土橋



土橋は土で造られた橋です。堀を掘り残して造られることが多く、松根城でも曲輪間を渡るためによく用いられています。

2 横堀



横堀とは曲輪をぐるっと囲むようにして掘られた堀のことです。斜面を登ってくる敵の侵入を妨害するための設備で、松根城では城全体を囲むほどの大きな横堀が造られています。

3 櫓台



見張りや鉄砲・弓矢などを使った攻撃のための櫓が建てられていた場所です。曲輪からせり出しており、小原越を通る人を監視することができました。建物を示す遺構は見つかっていませんが、盛土の中からは越前焼の甕のかけらや金属製品が出土しています。

4 小原越

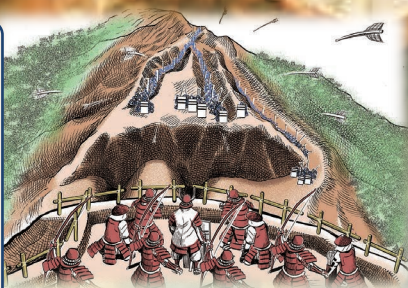


加賀と越中を結ぶ街道で、かつては多くの人が行き来をしていました。現在の金沢市吉原町で北陸道から分かれ、前田軍の切山城、そしてこの松根城を通過し、富山県側へのびています。松根城から金沢方面へ攻めるためには前田軍の拠点である切山城を通過せねばならず、同様に富山側へ攻めるためには松根城を通過しないといけない位置関係になっています。

5 大堀切(西側)



大きく地面を削ることで西側の金沢方面から続く小原越を断ち切っています。また堀切内の移動を阻むための設備が堀底に造られていたことが発掘調査でわかっています。大堀切を西側に進むと前田軍の切山城があるため、その存在を強く意識していたことがわかります。



大堀切のイメージ(手前が松根城)

6 大堀切(北側)



この大堀切は松根城から北に続いている尾根を通れないようにするために作られた巨大な堀切です。この尾根は朝日山城へつながっていた道があったと考えられ、朝日山城からの敵が攻めて来られないように築かれました。

7 主郭



主郭はこの松根城の中心となった場所であり、周辺の山の中でも最も高い場所にあり、標高が308mあります。この場所からは今でも石川県、富山県それぞれの景色を遠くまで見渡すことができ、戦国時代にはこの場所からほかの山城の様子をうかがっていたと考えられています。

8 外柵形虎口

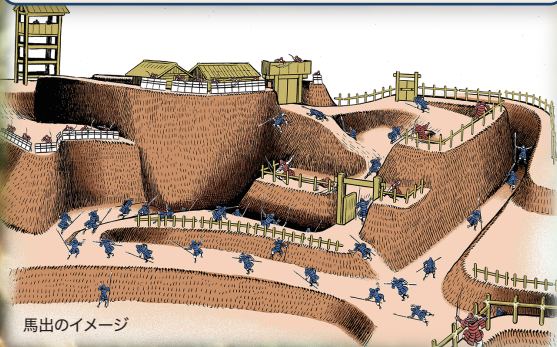


虎口は城郭の出入口のことを指す言葉で、元々は小さい道で「小口」とも言われていました。城を防御する上で重要な場所なので「虎」の漢字が使われるようになりました。この虎口は外柵形虎口と呼ばれていて、入り口の部分が外側に四角く張り出しています。通路を狭くし、何度も折れ曲がらないと入れない工夫をしてあるため大勢の敵が一気に城に入れないようになっています。

9 馬出



虎口から堀をはさんだ対岸に造られた曲輪を馬出と言います。虎口と馬出は細い橋でつながれており、敵を迎え討ったり、城兵を敵からかくすために使われました。馬出とは攻撃と防御に優れた装置なのです。松根城の馬出は、山の地形を利用して、馬出の内部にも様々な工夫がされているのが特徴です。



馬出のイメージ



0 50 100m

松根城の縄張り(城の中の構造物の配置)は、主郭(城の中心となる場所、多くは山城の最高所にある)と土橋①などで接続する曲輪群とそれらを囲む横堀②、曲輪間を分断する堀切、城の北と西を遮断する大堀切⑤⑥によって構成されています。

また城を防御するための外柵形虎口や馬出がいたるところに見られます。特に主郭⑦の南西は内柵形形状⑧になっており、その南側には馬出⑨があります。主郭南側の曲輪南端には外柵形⑧を設け、その南側の曲輪南東には馬出⑨を設けて守りを固めています。

さらに城の北と西に大堀切⑤⑥を造り、城へと続く道を遮断することによって佐々軍が前田軍の侵攻を防いでいる様子がわかります。

佐々成政



松根城跡を散策して
在りし日の松根城に
想いを馳せよう。

